

教科情報 視覚障害者の社会参画と ICT 支援機材の活用

最新のモバイル機材を体験しよう！

横浜市立盲学校 高等部普通科教諭（情報メディア支援部「図書館」代表司書教諭）

松田 基章

現代、急速な情報化が進み、高機能な携帯電話やパソコン、インターネットをさまざまな人が利用している。これらのハードウェアやソフトウェア、インフラの普及は容易に情報伝達や情報収集を可能とし生活の利便性向上が図られた。一方、情報化の進捗中、情報機器が利用できない、また、うまく活用できないための Digital Divide という現象が起こっていることも事実である。これらは障害を持つ人だけでなく、今後増え続ける高齢者などの支援も含まれている。高機能な携帯電話やパソコンは、GUI（Graphical User Interface）ベースによる利用を考慮したものである。目で見るということは視覚障害者や物が見づらい高齢者にとっては、非常に利用しにくい機器である。最近、音声で操作できる PDA が開発されてきている。これらを授業の中に取り入れ生徒に活用・体験し、生徒の社会参画支援の ICT による支援を図ることを研究してきた。

- 1) 携帯端末を気軽に持ち歩き、いつでもどこでも Net 情報が受け取れる体験
- 2) 図書館の資料を著作権法等に十分に配慮し、PDA にいれて持ち歩き活用
- 3) PDA など mobile 機材の ICT 活用の有用性や可能性を研究し活用法を探る

視覚障害者の特殊な機材の活用だけでなく、汎用の機材も含めての幅広い IT 機材の便利な点や出来ないことを生徒同士相互の情報交換することによって問題点も把握できる。実体験と同時に、インターネット・情報ネットワークを通じて、自ら情報検索をしたり、調べたり発表したりすることによって、情報を皆が共有することができ、自ら機材の特徴や更に詳しい内容について調べる力を学べる。そして、情報資料の利用方法を自然に習得できると同時に、学習領域のデジタル化社会の進展に繋がると同時に、機材を触りながら、楽しみながら将来の社会生活の中で、音声対応 PDA 「ユビキタスラジオ」横浜市立盲学校図書館情報データを情報メディアの一つとして、生徒に貸し出しをし、生徒に実際に試用・活用してもらう中で、問題点を探った。

生徒の興味関心も高く、その中で、音楽・書籍・デジタル資料の著作権を十分に考慮した学習を進めて来ている。

また、このような情報バリアフリー的な仕組みであれば、当然高齢者などにも応用をすることができるだけでなく、一般の方々にも、現代社会の情報配信を行うターゲットを大幅に広げる可能性が高い。これらのシステムが大切であることがわかり、開発が進み、大量生産が進めば、一般の機材に使用され、誰もが便利に使える物が多く世の中に出現する。今回の、この施行も、視覚障害者がモバイル機材を使えるようになれば、社会全体のユニバーサルデザイン化が進展するものと考えられる。また、ひとつの情報配信手段として確立することにより、視覚障害者や高齢者への情報バリアフリー化を促し、携帯端末を持つ誰でもが最新情報を入手することができるようになる。普段・どうしても手近な機材や写真・VTR などバーチャルやお話で授業を進めてしまいがちである。生徒に実物を見て、触って、聞いて試してもらうことが大切である。通信端末の仕組みの理解やほとんどボタン操作だけでメニュー選びが可能であり、さらに拡大文字も 40 ポイントまで対応している。弱視の生徒にとっても大きな文字で見えて、補助的に読み上げでサポートできる点が好評である。これらの機材はユニバーサルデザインの観点からも重要な要素である。

現在、横浜市立盲学校内で限定して、発信している図書館情報としては、理科や社会やパソコン関連の雑学情報・物知りベストテン・日本国憲法・小倉百人一首・著作権処理の済んでいる小説・エッセー・校内限定情報などである。また歩道の道先案内に使うことも検討・試行している。今後興味ある追加メニューを考えていきたい。移動先でも気軽に音声でニュースやエンターテイメントの情報 地理情報を得ることができることは、障害者や高齢者が積極的に社会に対し目を向け、社会に参加できる IT 活用の仕組みを意味している。

※横浜市立盲学校 図書館ボランティアサイト <http://www.yokomou.ed.jp/tosyo/tosyo/>

※横浜市立盲学校 Web サイト: <http://www.edu.city.yokohama.jp/ss/yokomou/>